

クロマダラタマムシ *Nipponobuprestis querceti* (Saunders)

【選定理由】

エノキなどの大木に見られるが、個体数が少ない。生息地は平野部に偏る傾向があるが、平野部に残存するこれらの大木はもともと少なく、かつ都市化による乾燥化などにより生息環境があきらかに悪化、縮小してきている。

【形態】

体長 17~28mm。黒色で、赤銅あるいは青緑色の金属色を帯び、上翅には多数の黄白色の小円紋がある。近似種にアオマダラタマムシがあるが、この種とは、体色の他、上翅の縦隆脈が太く弱いこと、上翅に各 2 個の円形の陥凹紋を欠くことなどで区別できる。

【分布の概要】

【県内の分布】

平野部を中心に分布し、稲沢市（穂積、1965）、名古屋市（長谷川、2002・2017）、岡崎市（大平、1985）、豊橋市（佐藤ほか、1990）などから記録がある。

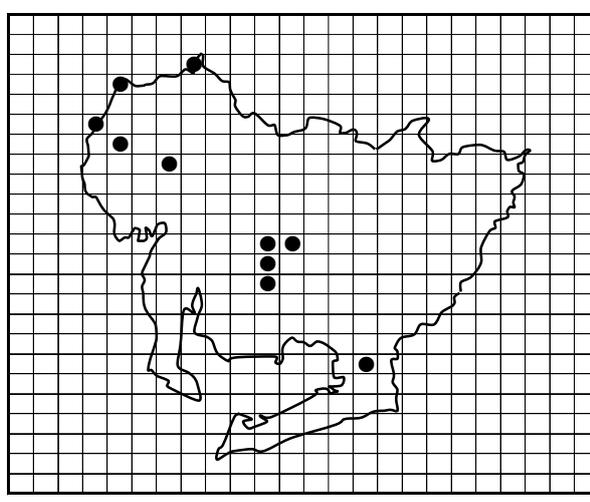
【国内の分布】

本州（関東以西）、四国、九州。

【世界の分布】

中国中部。

県内分布図



【生息地の環境／生態的特性】

県内では平野部および丘陵地で、寄主植物となるエノキ等の大木が存在する林に生息する。成虫は、5~7月 月に出現し大木の枯死部や樹冠部に見られ、幼虫は県内の観察例ではウロを伴う大木の枯死部に見つかる例が多い。

【現在の生息状況／減少の要因】

名古屋城産の古い標本が残されていることから、かつては、名古屋市内にも生息していた。三河地方では大木を伴う寺社、公園等の緑地に生息地が残されている。もともと個体数の多い種ではない。減少の原因としては、発生木となるエノキ大木の減少が挙げられる。分布の中心が平野部であるため、都市化の影響を強く受けたものと推測される。

【保全上の留意点】

生息地での発生木ならびに周辺環境の保全。特に本種の生息地となっている公園などでは、整備や管理事業が本種の生息環境の悪化に繋がらないよう十分考慮すべきである。

【引用文献】

- 穂積俊文, 1965. 船越俊平氏の標本箱より. ナビニュース, 55: 530.
大平仁夫, 1985. 岡崎市の昆虫類. 岡崎市史, 自然: 1024-1096.
佐藤正孝ほか, 1990. 愛知県の甲虫. 愛知県の昆虫, (上): 200-477. 愛知県.
長谷川道明, 2002. 豊橋市自然史博物館所蔵森部一雄コレクションに含まれる重要な愛知県産甲虫類. 豊橋市自然史博物館研究報告, (12): 49-53.
長谷川道明, 2017. 豊橋市自然史博物館に新たに収集された東海地方産絶滅危惧甲虫の標本について. 豊橋市自然史博物館研究報告, (27): 31-35.

【関連文献】

- 蟹江 昇・戸田尚希, 2008. 愛知県のタマムシ. 佳香蝶, 60 (234): 207-230.
河路掛吾, 2011. 愛知県におけるクロマダラタマムシの記録. 佳香蝶, 63 (246): 40.
穂積敏文, 1990. 愛知県の甲虫 (Ⅱ). 愛知県の昆虫, (上): 232-308. 愛知県.

(長谷川道明・蟹江 昇・戸田尚希)